

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

技術情報第1号

水稻の海外飛来性害虫の飛来状況について

梅雨期間（5月27日～7月8日）におけるセジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの飛来状況等をお知らせします。

また、トビイロウンカとコブノメイガについては、7月2半旬の現地ほ場における発生状況、ネットトラップ及び予察灯での捕獲数等に基づき発生予想パターン図を作成しましたので、今後の防除対策の資料として活用願います。

1 作物名 普通期水稻

2 病虫害名 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）

3 発生状況

(1) 飛来時期と飛来波

予察灯とネットトラップ（表1）及び、JPP-NET（（一社）日本植物防疫協会運営）からの「ウンカ飛来予測シミュレーションモデル」情報から、本年は5月29～30日（第1波）、6月19～25日（第2波）、7月3～7日（第3波）の3回飛来が確認されています。

そのうち主要な飛来日は、7月6日と考えられます。

(2) 7月2半旬のほ場調査結果

1) セジロウンカ

10株当たりの払い落とし成幼虫数は平均1.1頭（平年8.8頭、前年3.7頭）で、平年・前年より少なかった。

発生ほ場率は66.7%（平年68.4%、前年51.2%）で、平年・前年並であった。

2) トビイロウンカ

10株当たりの払い落とし成幼虫数は平均0.05頭（平年0.08頭、前年0.00頭）で、平年並で前年よりやや多かった。

発生ほ場率は9.8%（平年3.5%、前年0.0%）で、平年・前年より高かった。

3) コブノメイガ

食害株率は0.60%（平年0.35%、前年0.01%）で、平年並で前年より多かった。

30㎡当たり払い出し成虫数は0.05頭（平年0.27頭、前年0.00頭）で、平年より少なく前年並であった。

4 防除上注意すべき事項

(1) セジロウンカのは場での発生量は平年より少ないものの、今後も飛来する恐れがあるので、防除所が発表する今後の情報に注意して下さい。

しかし、セジロウンカは地域によっては、成幼虫の発生が多いほ場が見られるので、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は7月中旬の幼虫期に防除を行って下さい。

<要防除水準>

飛来成虫6頭/1株

(2) トビイロウンカのは場での発生量は、平年並で前年よりやや多く、発生ほ場率は平年・前年より高い状況で、第2波の飛来成虫も確認しています。

本虫は飛来後に好天が続くと急激に増殖します。本年は梅雨明けが平年より早く（-11日）、福岡管区气象台が7月5日に発表した1か月予報では、「気温は平年より高く、降水量は平年並」とされているので、今後の発生状況には十分注意する必要があります。

また、トビイロウンカは田植え時期、地域及びほ場による発生之差が大きく、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、移植後1か月以上経過すると増殖しやすいので、発生予想パターン図（図1）を参考に、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行って下さい。

<要防除水準：中老齢幼虫の合計数>

飛来後第1世代： 20頭/100株（7月中～下旬頃）

飛来後第2世代： 100頭/100株（8月中～下旬頃）

飛来後第3世代：1,000頭/100株（9月中～下旬頃）

(3) コブノメイガのは場での発生量もセジロウンカと同様に、平年よりやや少ないものの、今後も飛来する恐れがあるので、防除所が発表する今後の情報に注意して、発生予想パターン図（図2）を参考に、発生が多い場合は若齢幼虫期に防除を行って下さい。

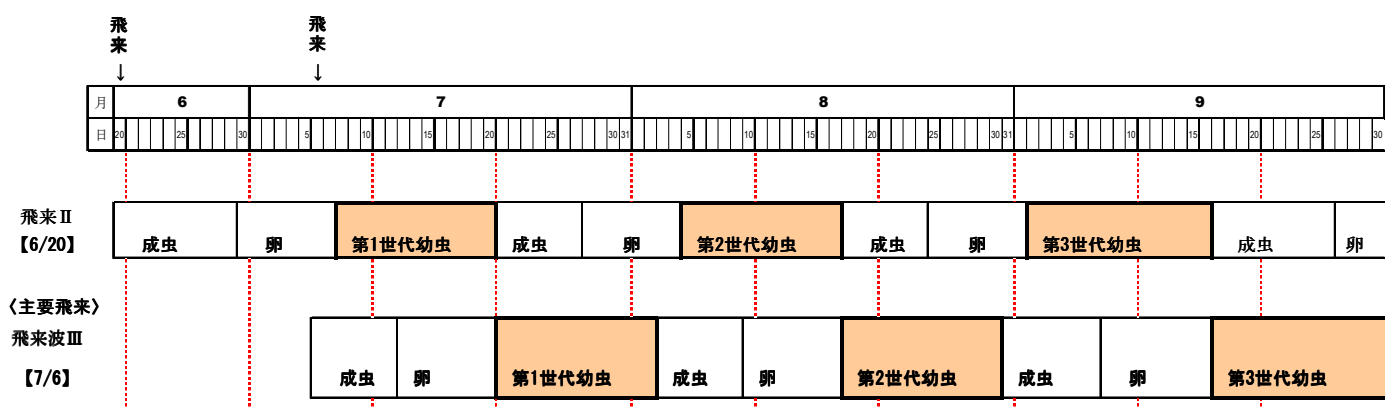
(4) 無人ヘリコプターによる防除を、気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が高くなる前の早朝に実施して下さい。

(5) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守して下さい。

(6) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>) を参照して下さい。

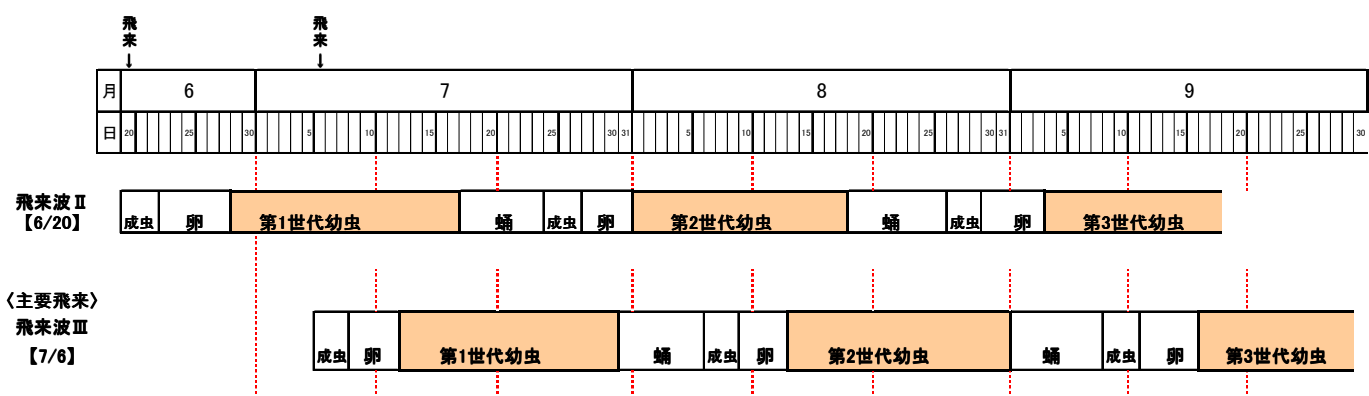
表1 ネットトラップと予察灯における誘殺状況

月日	セジロウンカ						トビイロウンカ						コブノメイガ						
	子額灯		子額灯		予察灯		子額灯		子額灯		予察灯		子額灯		子額灯		予察灯		
	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	発生	誘殺	
5/27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/22	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/24	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7/2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
7/5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/7	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	1	1



(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃、卵期間109.4℃、幼虫期間189.4℃)
 (2) 気温はアメダス太宰府を使用した。

図1 飛来に基づくトビロウカの発生予想パターン図 (平成25年7月11日作成)



(注) (1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。
 (2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。発育零点(卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃)、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(卵50.0℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃)
 (3) 気温はアメダス太宰府を使用した。
 (4) コブノメイガはウンカ類と同時期に飛来したと推定した。

図2 飛来に基づくコブノメイガの発生予想パターン図 (平成25年7月11日作成)

